

特別公開シンポジウム

心理療法における

エビデンスとナラティブ

この企画は日本学術振興会 人文・社会科学振興のためのプロジェクト研究事業「ボトムアップ人間関係論の構築」の研究成果発表の一環として実施致します。

日時：2007年3月21日(水・祝) 13:30~17:30(開場13:00)

場所：立命館大学
衣笠キャンパス 創思館カンファレンスルーム
逐次通訳の準備がごさいます。

導入講演

立命館大学 教授 サトウタツヤ

「機能主義と文脈主義からみた新しい心理療法の時代の行動療法とナラティブ:その歴史と展開」

招待講演

「How could Psychotherapy develop from the modern forms to post-modern」



英国アバティ大学 教授 John McLeod

シンポジウム

「新しい時代の
心理療法とカウンセリングの発展に向けて」

話題提供者

下山 晴彦 (東京大学教授)

「日本の心理療法の発展における物語り(ナラティブ)の意義」

能智 正博 (東京大学大学院助教授)

「ナラティブの視点と"リハビリテーション・カウンセリング"」

武藤 崇 (立命館大学助教授)

「認知行動療法とナラティブ："close outsider"という倫理」

松見 淳子 (関西学院大学教授)

「E B P (Evidence-Based Practice) の今日的意味と展望」

指定討論者

John McLeod (英国アバティ大学教授)

「物語りとしての心理療法—ナラティブ・セラピーの魅力」

「臨床実践のための質的研究法入門」出版記念

主催：日本学術振興会 科学研究費補助金

「社会状況や海外学説との関連からみた本邦臨床心理学の歴史的展開」
(研究代表者：佐藤達哉)

共催：立命館大学人間科学研究所

後援：日本質的心理学会

入場無料

(E-mailまたはFAXにてお申し込み下さい)